

歌舞伎町に集まる 若年者から見る 市販薬濫用の実態と施策

公益社団法人 日本駆け込み寺
事務局長 田中芳秀

「公益社団法人 日本駆け込み寺」とは

新宿・歌舞伎町で22年間、
5万件以上のあらゆる問題を解決してきた。

- 2002年、玄秀盛（代表理事）が、新宿・歌舞伎町で開設。あらゆる悩みやトラブルを解決するために開設した。「たった一人のあなたを救う」をモットーに22年以上活動している。
- 近年では、悪質ホスト問題、闇バイト、歌舞伎町で彷徨う若年者の相談、支援をする中で、若年者の市販薬濫用が進んでいることが分かった。
(歌舞伎町アウトリーチ、こども食堂)
- これまでの22年間の活動の中で、覚醒剤、大麻などの違法ドラッグなどの相談を受けることも多い。増加した市販薬濫用の相談にも対応している。



最近の取り組みについて

新宿・歌舞伎町の現場での活動

- 3年前からこども食堂を開始。現在、毎週土曜日13時から18時。
- 毎回30名前後の来所。近隣に住む親子も来所する
- 毎日2回（15時、18時）、歌舞伎町一帯の清掃活動
- 午後から未成年限定の居場所づくり
- 相談事業



深夜食堂を開始

- 今年8月から、毎週木～土曜日の22時から24時で、「深夜食堂」を開始。
- 食事づくりは、元路上売春をしていた女性を中心に、ボランティアとともに調理。毎回30名以上が来所する。
- 「立ちんぼ」と言われる大久保公園周辺に集まる女性たちが来所する
- 充電やトイレなどの提供もしている。



相談対応

若年層からの相談者の声

- 男性から恋愛感情を利用して売春を強要されている（20歳女性）
- 人間関係が理由でODが辞められない（20代女性）
- 親のDVで居場所がない（10代女性）
- 精神病院に入れられるから嫌だ（10代女性）
- 搜索願が出ているどうしたらいいか（10代女性）

親・保護者からの相談者の声

- 娘が不登校になって、家出を繰り返す（40代女性）
- メンコンやホストに出入りしている（40代男性）
- SNSで写っていた娘を探してほしい（40代男性・女性）

医薬品の濫用について

医薬品濫用者の特徴

- 10代～20代（特に中高生等）が多い（市販薬の濫用は特に）
- 女性が大半である
- 濫用は10代から開始する人が多い
- 繁華街に来て覚えるパターンもあるが、実家（地方）ですでに経験済みの場合もある

医薬品濫用の動機

市販薬濫用は意図的なものである

- 友達がやっているから。仲間外れになりたくない。
- ファッション感覚で行う。オシャレなイメージがある。
- 犯罪行為ではない
- 気軽に簡単に入手できる
- 多幸福感を味わいたい。楽しい気持ちになりたい。現実逃避したい。
- 宿泊場所ではじめる。
- 身体的外傷がない。
- 興味本位（SNSなどでODの投稿を見て興味を持った）

医薬品の入手経路

購入経路は、実店舗での購入割合が多い

- 歌舞伎町に訪れている若年者の多くは、歌舞伎町内のディスカウントストアで市販薬を多く購入している。しかし、購入数量の制限がある場合は友人らに代理購入を依頼する者もいる。また、渋谷、池袋など近隣の地域へも購入のために足を運ぶこともある。何よりすぐに入手できるため実店舗での購入割合が多い。
- 常習的に市販薬濫用を行っており、そのための市販薬を常備しているような若年者はネット通販を利用して大量の市販薬を一度に購入している。一部では市販薬の転売をしている者もいる。

違法な入手方法も多い

- 万引き
 - ネット売買、SNS
 - 生活保護受給者から処方薬を購入
 - 売春の対価としてもらう
 - 路上売買
- など

医薬品濫用に使用される主な薬

地方で市販薬でODを経験し、
上京して歌舞伎町で処方薬でODする人が多い

市販薬

- メジコン
 - ✓ 錠剤が小さく飲みやすい。一度に330錠摂取した者もいる。
 - ブロン
 - ✓ 錠剤がやや大きい。糖衣を水で溶かして小さくして摂取している。糖衣が甘くて
 - ✓ ラムネのお菓子と混ぜてロシアンルーレットのようにしてゲーム感覚で摂取している者もいる
 - ウット
 - レスタミンコーワ
- など

処方薬

- サイレース
 - マイスリー
 - ハルシオン
 - コンサータ
 - ベタナミン
 - デパス
- など

市販薬濫用の方法

- それぞれの薬で効果や現れる現象に差があるため、気分によって種類を変えたりする。
- また、複数の市販薬を混ぜ合わせることで効果の違いを比したりしている。一部では薬について勉強している者もあり、成分を確認して自分に効果のあるものを選択する。
- 友人からのODの相談に乗り薬の紹介をしている者もいる。
- 誰でも出入り可能なホテルにたむろしてODしている者が多い。このような場所は医薬品の売春や自殺（飛び降り自殺）とも深く関係。
- 人目のつかない路上でODしている者もいる。

身体的特徴が無いいため見抜くことが困難

- 市販薬濫用をしても、身体的な特徴や外傷がないため濫用者を見抜くことが困難である。
- 身体的特徴や外傷が無いことから販売者も濫用目的の購入なのかの判断が難しい。
- また、若年者も気軽に濫用をすることができる。この気軽さが市販薬濫用者が増加している理由の一つである。

市販薬濫用者のインタビュー

ODしたくなる時はどんな時？

- バットに入った時。
- 気分が落ち込んだ時。
- 気分を変えたい時。
- 寂しい時。
- みんながしている時、自分も一緒にしたくなる。

ODは一人で行うの？

- 一人でする時もあるけど、みんなと一緒にすることが多い。みんなと一緒にODすることが楽しい。みんなでODしてカラオケに行くパキカラが楽しい。
- ホテルでみんな集まって飲むと安心する。仲間意識が強まる気がする。

市販薬濫用者のインタビュー

ODってどんな感覚ですか？

- 大人はお酒飲んで楽しんでいる、私たちにとっては大人がお酒飲むような感覚。
- お酒とタバコとODは同じような感じ。

ODを始めたきっかけは？

- 友達がやっているから。
- お酒、タバコの未成年者の購入が難しくなってきたから、ODをするようになった。
- SNSでODをしている人の投稿を見て自分もやってみようと思った。

市販薬濫用者のインタビュー

薬の成分について調べたことある？

- めちゃ調べた。
- アッパー系の成分とダウン系の成分が入った市販薬を同時に飲んで、自分の体内で両方の薬が戦っている感覚が楽しい。調べて勉強して実践するを繰り返している。

どうしたらODしなくなる？

- 飲みにくい薬の形状にしたほうがいいと思う。星型や四角形のように角があったら飲みにくい。
- 本当に薬が必要な人は飲みにくいかもしれないけど、OD目的で使っている人がほとんどだと思う。

市販薬濫用者のインタビュー

ODを辞めたきっかけは？

- これ以上やったら死ぬって思った。あとは、友達がODでパキっている時の様子を見た時に自分もこうなっているんだと思って辞めた。
- 家族にパキっている姿を見られた時。

違法薬物には手を出さないの？

- 出さない。
- もちろんやってる人もいるけど、私はしない。やっぱり違法っていうところに抵抗がある。

日本駆け込み寺が考える施策

濫用目的の購入をさせない

- メジコン、ブロン、ウット、レスタミンコーワなど濫用されている市販薬に重点を置いた対策の実施。
- 市販薬濫用の手軽さから濫用する若年者が後をたたない状態。販売者が濫用に使用される可能性を見抜くのは困難であるが、明らかに適切な使用をしていないと思われる人に対して、症状のヒアリングであったり、声かけなどを行う。
 - ※ 適切な対応をしていないと思われる人の例
頻繁に大量の市販薬を購入する（用法、容量を守った場合2週間分ある薬品を3日に一回購入するなど）
- これまでの支援の経験より若年者には「使用上の注意、用法、容量の読み合わせを行った上で、濫用により危険性を伝える。」ことで濫用を防ぐことができると考える。医薬品の購入に負荷をかけることで濫用目的の購入を減らす。コンビニで酒類やタバコ類を購入した際に20歳以上ですか？との問いがあるように、適切に摂取するかの確認をする。身分証提示、会員限定なども有効と考える。（次項のアプリ導入が有効案）

薬品購入履歴アプリの導入

- 市販薬濫用を防止するために薬品購入履歴が記録できるアプリを使用する。大型店舗から小型店舗、個人経営の店舗まで、費用がかからない方法でシステムを導入できるように工夫する。
- 課題としてスマホを持っていない人（高齢者や子供、外国人）の履歴の管理ができないこと、データの管理の問題などがある。

市販薬濫用の危険性を伝える

- 歌舞伎町など市販薬濫用者が多く集まると思われる、地域では街頭広告などで市販薬濫用の危険性を伝える広告を行う。また、TikTokやXなどのSNSを活用した広告などで訴求すると若年者にリーチしやすい。これを各市区町村が行い、全国的に危険性を発信することで浸透しやすい状況をつくる。学校での教育も行う。（保健体育や健康診断の際などに勉強の機会を提供する）
- 実際に歌舞伎町に訪れていた若年者の数名は市販薬濫用が原因で死亡しているケースがあり、非常に危険であることを当事者からも認識しているがやめられない状態である。

市販薬を求める若者を狙う大人を止める

- 若年層の欲望を利用する大人たちへの監視
- 行政、地域の無関心をやめる
- 若者への啓発・啓蒙と同時に、若者たちを利用する大人たちの取り締まり
- 大人への啓発・啓蒙活動

居場所の提供

- 若年者に対して安心して過ごせる居場所を提供する。一定期間の保護を行う。保護期間の中で、市販薬濫用の危険性の教育を行うほか、対人、家族関係で悩んでいることや自分の将来について悩んでいる事など、相談、カウンセリングを行う。
- 児童相談所、行政、警察などの情報共有と、若年者の接触方法の構築。
- 地域、自治会などとの連携強化。